

留学報告書 ～アチェで学んだ事～

アルムスリム大学
外国語学部生（長期）

私はインドネシアのスマトラ島アチェ州ビルン県に位置するアルムスリム大学へ約 10 ヶ月間留学をしていました。インドネシアは世界最大の島嶼国家で、イスラム教徒の方が世界で最も多く住む国でもあります。また民族は 300 種類以上、使われる言語は 707 種類以上といわれています。そんな魅力あふれるインドネシアの中でも私が留学を経験したのはスマトラ島の北西部に位置するアチェ州です。ここはインドネシアの中でも唯一イスラム教の法律『シャリーア』が制定されており、約 98%というほとんどの住民がイスラム教を信仰していました。シャリーアは女性を守るための法律であり、結婚前の男女の甚だしい交際、例えば結婚以前の男女が公共の場で抱き合ったり、性行為をしたりした場合には公開むち打ち刑で罰せられます。これはイスラム教の聖典であるコーランを元にした規則であるので、郷に従って女友達と一緒に行動し、服装も肌の露出は控えたものを着て、化粧品は濃いものでないものを身につけました。

インドネシア人の女性はヒジャブという髪の毛を隠すためのスカーフを頭に巻き、服装も足のくるぶしの見えないものや長袖を着用して生活をしていました。大学内で女子学生はスカートで靴を履くというのが規則でした。インドネシアへ来て間もない頃に、自分では気を付けていたつもりでしたが、服装に対して一度注意を受けたことがあります。この時から宗教や大学に対しての敬意が足りなかったと反省をし、毎日カーディガンを着て登校をするようにしました。イスラム教は一日に 5 回の礼拝があり、夕方になるとアザーンという礼拝を呼びかける放送が大きな音で町中に響き渡ります。その時間帯をマグリブといい、その時間帯になると全ての店が閉まり、数分前までにぎわっていた道路が嘘のように静まり返っているのを見ると不思議な感覚になりました。マグリブが過ぎ礼拝を終えると店がまた再開します。土曜日の夜にアチェ人はよく外へ出て友達と食事していたので、私もよくカフェで友達と集まって話したり、オドンオドンと呼ばれる乗り物に乗ってビルン市の街を一望したりしました。また金曜日のお昼には大切な礼拝があり、男性のみが神聖な格好でモスクへ行きます。その間も店は閉まってしまうので女友達の部屋で過ごさせてもらっていました。

イスラム教には年に 1 度 1 ヶ月の断食月があります。日が昇っていない朝と夜以外は水も食べ物も食べてはいけませんし、全ての飲食店は夕方になるまで閉まっていた。夕方になると麺やお菓子、花火などの屋台が沢山あり祭りのような雰囲気、家族や友達と断食明けの食事を同じ時間に開いて楽しんでいました。また断食明けにはレバランと呼ばれる断食明けの休暇が 1 ヶ月あり、それを楽しみに断食月を頑張るといふ人も多いようです。

煙草も期間中は吸ってはいけないということを現地で初めて知り、本物の禁欲の期間であることを実感しました。実際に私も体調の悪い日以外はできる限り挑戦しましたが、意外なことにより辛いと感せず、夜も少し食べたただけでお腹が満たされました。



大学祭で披露したインドネシアの踊り（サマン踊りも含む）の練習と本番の写真

大学生活ではユネスコ無形文化遺産に登録されているアチェの伝統的なサマン踊りのサークルに参加させて頂きました。この踊りに興味を持ち始めたのは上の写真のように大学祭で披露した集団踊りに参加したのがきっかけです。大学祭ではサマン踊りを含むインドネシアの伝統的踊りをミックスさせたものを踊りました。インドネシアに来て間もないまま参加したので言語の意思疎通が難しかったけれど友達を作るきっかけやインドネシア語の勉強に繋がりました。練習は1ヶ月間毎日ありましたが、練習時間になっても来なかったり雨季のため毎日のように突然大雨が降りだしたりしたことに驚きました。また友達と遊ぶ約束をした時に1人の子を2時間以上待った経験があるのですが、そのことに対して怒る素振りも見せない友達を見て感心すると同時に文化の違いを感じました。大学祭本番には上の写真のような濃いメイクと素敵な衣装を着て出場しました。参加させてもらっただけでもありがたいのに曲の始まりに一人で踊るセンターを任された事が本当に嬉しく、緊張しましたが自信を持って踊り切りました。この時の写真がアチェの新聞に載り、ちょっとした有名人になった気分が味わえました。この経験をきっかけに更にサマン踊りについて詳しく知りたいと思い、インドネシアに来て3ヵ月経った頃、勇気を振り絞ってサマン踊りの先生に話しかけた事からサマン踊りのサークルの週1回の練習に参加させてもらえるようになりました。大学祭の踊りでできた友達や先生が練習に長時間付き合ってくれたお陰で約1ヶ月という短い期間でサマン踊りのほとんどの動きを覚えることができました。本当に友達に恵まれていたことに感謝をしています。

この踊りをどこかで披露できる機会を待っていた時に、丁度インドネシアで全国放送されている「Indosiar」という番組からアチェの歌手を目指す女性を応援する為にサマン踊りをスタジオで踊ってほしいというお誘いが来ました。私はサマン踊りの全種類は踊ること

ができなかったので出場できないと思っていましたが、サマン踊りの先生が私を推薦してくださり、ジャカルタへアルムスリム大学の学生の一員として行けることが決まりました。その時は本当に嬉しかったのですが、ラパイというサマン踊りの時に使われる楽器を用いた踊りを3日で覚えなさいといけなかったのでプレッシャーもありましたが、友達や先輩、先生のお陰で何とか覚えることができました。ジャカルタでは観光でインドネシアの独立記念塔モナスへ行ったり、狭い同じ部屋のベットに7人で眠り、朝食を作るために買い出しをしたりして、メンバーとの絆を深めることができ、当日はメンバーと協力してインドネシアの有名人の前でいい緊張感を持って踊ることができたのでよかったです。またこの中で唯一日本人が1人紛れていることから軽いインタビューを受け、間違えながらもインドネシア語で伝えることができ安心しました。この旅のお陰でインドネシア語により慣れることができ、ジャカルタから帰ってきた後もジャカルタへ行ったメンバーから頻繁に遊びに誘ってもらえるなどして、いい関係を築くことができました。帰宅後はこのジャカルタへ行ったお陰で、私の住んでいたビルン県のイベントに呼んでもらうことができ、留学中に計2回のイベントで踊らせてもらうことができとても光栄に思っています。日本でも何かの形でこのサマン踊りの良さを伝えていけたらいいです。



インドネシアの全国放送番組 Indosiar の写真 / インドネシア独立記念塔モナスの写真

私は留学へ行く前に国際関係学部のゼミ旅行に参加させて頂き、4日間インドネシアのアチェに滞在しました。その時に先生が支援している村を周りながら、日本政府が作った天然ガスの工場であチェ人に多大な被害を与え、2004年のスマトラ沖地震をきっかけに世界からの支援を受け、アチェ独立運動とインドネシア政府が後に和平合意を結んだことを知りました。また留学中の授業でオランダに約300年植民地とされてきたインドネシ

アですが、日本から植民地とされていた3年間はそのオランダに植民地化されていた期間よりも厳しいものだったと学びました。また留学中に大統領選挙があったのですが、インドネシアでは小指に紫色のインクを付けて、投票用紙に書いてある名前を選んでいました。そのインクは1週間位で落ちるのですが、選挙に行ったか行っていないかが一目瞭然なので、若者の投票率の少ない日本でも取り入れたら面白味があつていいと思いました。

留学生活を通して、今まで興味を持たなかった政治や宗教について学ぶことができ、それによってそれらに対する見方が変わり、自分の無知さと関心や危機感の無さに気がつきました。アチェの人達と触れ合ってみて、最初は自分本位はと思いきや、日本人で宗教も違う私を受け入れ本当に優しく接してくれて、お互いの宗教を尊重しあうことができ、自分の事が大好きで大切にしている分、自分の意見を持つてはつきり言えてしまうアチェ人の友達を今では尊敬しています。この経験を通して社会に出たときに人の意見に流されず、アチェの人のように強く生きていきたいです。